

平成 23 年度
第 1 回 長岡市図書館協議会

日 時 平成 23 年 7 月 8 日 (金) 午後 2 時から午後 4 時まで
場 所 中央図書館 2 階 講座室 1

会議出席者 委 員 : 渡邊委員長 淵本副委員長 恩田委員 熊倉委員 谷委員 中
村委員 畠野委員 松本委員 山岸委員
(欠席:湯本委員)
事務局 : 大滝部長 小倉館長 廣田補佐 岩渕庶務係長 松矢奉仕係長
石井文書資料室長 指定管理者荒井業務統括責任者 同高橋
業務統括チーフ 同渡辺業務責任者

1 開 会

2 教育部長あいさつ

3 議 事

(1) 報告事項

① 平成 22 年度の事業報告

平成 23 年度「図書館の概要」により説明

② 避難者に対する図書館サービスについて

③ 平成 23 年度事業概要について

(2) 協議事項

① 「市民の求める図書暗」について

② 「子ども読書活動推進計画」の骨子について

4 閉 会

5 会議録要旨

○蔵書数の中の未整理という項目は何か。また、司書資格者数と関係があるか。

⇒データに不具合が生じている資料である。早急に修正を行いたい。

司書資格者数とは直接的な関係はない。

○行事参加状況について一覧表があるが、「目標値」はあるのか。また、互尊文庫の学習室の利用者数の減少原因は何か。

⇒年度当初に目標値を設定し、2月の図書館協議会で委員の皆様から評価をいただく予定である。

学習室の利用者の減少については、自習できる場が中央図書館や市民センターなど他

の場所にも設けられているため、分散傾向として、減少していると思われる。

○エコ・ブックスフェアを長岡市民は我慢して、優先的に避難されている方を対象に実施してはいかがか。

⇒今年度予定していたエコ・ブックスフェアは従来の形で実施済である。避難されている方々へは、図書館で不用になった本ではなく、市民から募ったものにメッセージを添えて提供した。時代小説・絵本が喜ばれた。

○現在進めている地震関係のデータベースについて、フェニックスビルのアーカイブセンターとの連携はどうなっているのか。

⇒中越防災機構とは連絡をとっており、最終的にはリンクさせる。

○山古志の図録を新潟大学の費用で作成することになっているが、市史双書はこれとは別に発行するのか。

⇒別に発行する予定である。

○予約をしたら半年後にやっと読むことができた。話題の本や人気の本をもっと用意できないか。

⇒限られた予算の中で、多くのリクエストに応じていかなければならない。また、図書館として備えておきたい本もあるので、同一タイトルでは市全体で10冊くらいを限度としている。

○例として示された「読書通帳」は、子どもに人気がありそうだ。

○自習室は、図書館法等に触れることがないのであれば、方針として常設にしたらどうか。増設は困難なので、今ある施設をやりくりするのがよいのではないか。

○団塊の世代の利用は増えているか。

⇒確かな数字は持っていないが、館内を見ていると団塊の世代と思われる利用者は多い。

○高齢者を迎え入れる施設としても大切な場所であり、増設も必要になってくるのではないか。

○さまざまな年代の人が共存できる場であるとよい。分かち合う、お互いを認め合う図書館であってほしい。隔離された児童室と書架の間にある児童コーナーとでは、図書館としてはどちらがよいのだろうか。

⇒互尊文庫のとき児童室は独立した部屋であったが、中央図書館をここに建設するときに交流があるようにオープンにした経緯がある。

○図書の内容については、ニーズを踏まえて揃えておられるのだから特に異論はないが、遅くまで開館しているとありがたい。

○入館者数及び貸出冊数を徒に求めない図書館であってほしい。地域図書館は、地域に密着した図書館、中央図書館は専門家が納得する図書館・うなる図書館であってほしい。ビジネス、技術・電子図書も含めて特徴として出していくのもありではないか。3大学1高専との連携、まちなかキャンパスともつなげていけばそれぞれにメリットが出てくる。

- ハード面での充実、早期開館や開館時間の延長、自習室・閲覧室の拡張、「読書通帳」の要望があった。電子書籍については他でどのように使われているのか、技術的な面の調査研究をしてほしい。
- 新聞活用授業が小学校で始まり、中・高校でも随時実施されていく。活字離れが指摘されている中、子ども読書活動推進計画と新聞活用がつながっていく。
- 人材育成や学校に司書を配置することについてはどのように考えているか。
⇒そうありたいということで載せているが、現実問題としては難しい。
- 真偽のほどは分からないが、小・中学校では図書館が閉まっていることが多かった。高校はいつも開いていて専門の人がいるので驚いたと生徒から聞いている。また、高校ではこれまでにバラバラに行っていた活動をきちんとしようと、新潟県図書館協議会を組織し、司書教諭部会・学校司書部会を今年立ち上げた。
⇒専門職員の配備については、財源等の問題等がある。12 学級以上の学校には司書教諭を置くことが法で定められている。長岡市では、12 学級以下でも配置しているところもある。司書教諭に役割を担ってもらうため、市内 88 校中、小学校 27 校、中学校 9 校、12 学級未満 8 校、全部で 44 校に司書教諭を配置している。
- 専門職員の配備は掲げたほうがよい。地域によって濃淡があってはならない。図書館と教育委員会・学校三者での連携が必要ではないか。
- 言語が異なる外国籍の子どもたちへの支援は、国際交流センターとの連携を進めるとよい。
- 国際交流とのかかわりをもっと明確化する。
- てくてく・ぐんぐんにも本があるが、この計画の中での位置づけはどうなるのか。
⇒図書館ではなく、子育て支援施設として位置づけている。
- 運動部の生徒は、引退してから図書館を自習室として使うことが多い。スポーツをしている子は、集中力が身に付く。
- 長岡市の子ども読書活動推進計画は、中央図書館が事務局となつてつくるということか。つくる際の協議機関がこの協議会なのか、単に市民代表として意見を述べるだけなのか。
⇒主として図書館がつくる。内部で関係課と協議し、その結果を協議会で再度伺う。
- 例えば専門職員の配置についてであるが、市内部での調整やわれわれの意見の中で、仮に増員するとなったときにはここに載ってくるという認識でよいか。
⇒目指すということが決定されればここ載ってくる。長岡市の場合は、子どもたちに対する実践活動は進んでいるので、専門の委員会を設置せずに、実践を生かした形で策定する。計画作成に伴い、目標が出てくるので皆さんのご意見を参考にしたい。
- 毎回とはいかないが、継続協議という形でいきたい。計画はいつまでにつくるのか。
⇒25 年 3 月末である。